

PRESS RELEASE

報道関係各位

平成 28 年 3 月 8 日

400 年を超える高岡市の鋳物技術と 600 年を超える南砺市の彫刻技術を活用した地場産業活性化モデルの構築・展開事業推進協議会

先端技術・伝統技術の融合による国宝 法隆寺釈迦三尊像の再現プロジェクト、 仕上げ前の中尊・台座を 3 月 21 日（月・祝）にお披露目 ～産学官・地域間連携により、日本の芸術文化と地域の伝統技術を同時発信～

富山県高岡市、南砺市および東京藝術大学は平成 27 年度、産学官連携で国宝 法隆寺釈迦三尊像（以下、「釈迦三尊像」）の再現に取り組んできました。このたび、高岡市（伝統工芸高岡銅器振興協同組合）および南砺市（井波彫刻協同組合）での工程が 3 月下旬をもって終了し、3 月 21 日（月・祝）に高岡市で開催するフォーラムにおいて一部公開されますので、お知らせします。

（画像：中尊の再現制作風景）



本取組は東京藝術大学が法隆寺様ならびに文化庁より特別に許可をいただき、釈迦三尊像の高精細な 3D データを取得し、これにより 3D プリンターで作成された原型を用いて、高岡市および南砺市の伝統技術（鋳物、彫刻）を活用し再現制作をしているものです。地域間だけでなく大学とも連携したプロジェクトにより、学術的な最新研究成果と長い年月で培われた職人の経験と感性が相互に補い合い、より高いレベルでの歴史的資産の再現につながっています。

釈迦三尊像の再現物は来年度以降、東京藝術大学にて最終仕上げを行い、平成 28 年秋ごろの完成後、国内外での展示を予定しています。この事業により、普段、法隆寺から出ることのない貴重な国宝の忠実な再現物が外で見られるようになるだけでなく、当事業の推進協議会としては、日本の芸術文化の魅力や伝統技術の高さを今後国内外に広く発信し、歴史的資産等の再現・修復の需要を取り込むことで、高岡地域のしごとづくりに結び付けていくことを目指しています。

■フォーラム実施概要（予定）

- タイトル：「国宝法隆寺釈迦三尊像の再現～地域のものづくりと日本の未来に向けて～」
- 日時：平成 28 年 3 月 21 日（月・祝） 18 時 30 分～20 時（開場 18 時）
- 会場：ウイング・ウイング高岡 4 階ホール
- 登壇者：高橋正樹高岡市長、田中幹夫南砺市長、宮廻正明東京藝術大学大学院教授・学長特命・社会連携センター長、伊東順二東京藝術大学社会連携センター特任教授・高岡市魅力発信アドバイザー、溝口洋内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官
- 内容：高岡市長挨拶、南砺市長挨拶、仕上げ前の中尊（鋳物・原型）および台座（上座）のお披露目、講演、パネルディスカッション など
- 主催：400 年を超える高岡市の鋳物技術と 600 年を超える南砺市の彫刻技術を活用した地場産業活性化モデルの構築・展開事業推進協議会

※高岡市および南砺市の伝統技術（鋳物、彫刻）、釈迦三尊像に関する詳細は、別紙参考資料（次頁）をご参照下さい

<報道関係者の方のお問い合わせ先>

当協議会事務局（高岡市役所 産業企画課内）担当：秋元 TEL/FAX:0766-20-1394

【広報担当】一般社団法人 CREP4 担当：林口 TEL/FAX:0766-54-6210

<別紙／参考資料>

高岡鑄物（高岡市）

富山県高岡市の鑄物は、近世初頭の高岡開町にはじまり、最初は鍋、釜などの日用品や鋤、くわなどの農具を生産していました。江戸中期には釣鐘や灯籠などが造られるようになり、江戸末期頃には銅器鑄物技術の進展により、仏具や花びんなど日用的で装飾・鑑賞性の高い製品を産出し、国内はもとより海外にも輸出されるようになり、高岡を代表する地場産業として今日の発展の礎となりました。昭和50年には国の伝統的工芸品の産地指定を受け、現在美術銅器や仏具などが生産され、大きなシェアを占めています。また、伝統的な製品だけでなく、現代的なデザインの展開も活発に行っています。高岡には多数の鑄造技法が蓄積されており、今回の事業でも、多様な技法、技能を持つ伝統工芸高岡銅器振興協同組合の各社が協力し、再現制作に挑んでいます。



(画像：今回の再現制作における鑄込み風景)

井波彫刻（南砺市）

富山県南砺市の井波彫刻は、井波別院 瑞泉寺（14世紀末、旧井波村に創設）を江戸時代中期に再建する際、京都本願寺の御用彫刻師から地元大工が彫刻技法を本格的に習ったことが始まりです。明治初期には一般住宅用の欄間の制作も行われるようになり、昭和以降も寺社仏閣の彫刻だけでなく、一般住宅欄間や獅子頭等の置物が多く手がけられてきました。昭和50年には国の伝統的工芸品の産地指定を受け、現在では伝統工芸だけでなく日展などへの作家活動も盛んに行われています。



(画像：建具師による台座の組立)

釈迦三尊像の再現においては、台座（上座）の彫刻において彫刻師が携わっているだけでなく、井波彫刻とともに歩んできたベテランの建具師もその組立に関わっています（画像左）。

国宝 法隆寺釈迦三尊像と今回の取組の意義

本尊・左右脇侍の三尊からなり、背後に大型の舟形光背を背負う仏像で、法隆寺金堂に安置されています。飛鳥時代 推古天皇31年（西暦623年）に止利仏師により造られたとの銘文があり、貴重な仏像とされています。一光三尊の金銅像としては日本で最も古く、日本仏教彫刻史の初頭を飾る名作として知られ、図式的な衣文の処理やアーモンド型の眼、アルカイクスマイル（ギリシャのアルカイク彫刻にみられる口元に微笑を浮かべた表情）、太い耳朵、首に三道を刻まないなど、大陸風の特徴を有しています。

今回、東京藝術大学が法隆寺と文化庁に特別許可をいただき、取得・解析されたデータを基に、デジタル上で3D造型が行われた後、3Dプリンターにて鑄物や彫刻の原型が出力されました。原型の制作や鑄型の調整の過程において、地域創生を目的とする文化マネジメントのもと学術的な専門家と鑄造の専門家による技術・知識の綿密なすり合せが行われました。今後、このような取組が確立することにより、より多くの貴重な歴史的資産の修復や公開に活かすことができ、伝統技術の継承・発展にも役立てることが期待できます。

<報道関係者の方のお問い合わせ先>

当協議会事務局（高岡市役所 産業企画課内）担当：秋元 TEL/FAX:0766-20-1394

【広報担当】一般社団法人 CREP4

担当：林口 TEL/FAX:0766-54-6210